

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

子どもは納得しているか

校長 澁谷 一男

全校書き初め大会。張り詰めた空気の中、真剣な表情で筆を運ぶ子どもたちの姿は実に清々^{すがすが}しい。私が子どもの頃は、書き上げた作品は学校に提出するものを除いて、「さいの神（どんど焼き）」で燃やした。燃えた灰が高く上がるほど書が上達するとも言われた。最近ではこうした小正月の伝統行事もあまり目にしなくなった。



正月の風物詩と言えば、箱根駅伝もその一つ。今年は「三強」とも「戦国駅伝」とも言われ、激戦が予想されていたが、終わってみれば青山学院大学の圧勝だった。特に復路は圧巻のレース運びで、原監督の予告どおりの展開となった。万全な準備、的確な選手起用、選手と監督の揺るぎない信頼関係がもたらした結果であろう。しかし、そこまでの道のりは決して平坦ではなかったことは想像に難くない。実際、練習方針などで監督と選手たちの意見が合わず、議論になることも少なくなかったという。選手も立派な大人たちだ。ときには監督の考えに異を唱え、自分たちの意見を主張するのも当然のことだ。そんなとき原監督は、選手たちの意見にしっかりと耳を傾け、とことん話し合ったそうだ。このことによって、選手たちは納得した上で練習に取り組むことができたのであろう。

子どもたちと約束事を決めるとき、とかく大人が一方的に決めたり、大人の価値観を押しついたりすることはないだろうか。果たして、その約束は守られず、結果子どもを叱る羽目になる、というのはよくあることだ。大事なものは、その約束事を子どもが納得しているかどうかだ。

起床や就寝・帰宅する時刻、家庭での役割分担、スマートフォンやゲームの時間など、各家庭でも子どもとの約束事があるかと思う。それらについて、子ども自身は納得しているだろうか。もし、そうでなければ、「なぜその約束が必要なのか」「その約束を守ることで、どんなよいことがあるか」などについて、子どもに考えさせたり、子どもと一緒に考えたりしてみたいだろうか。子どもが納得した上での約束なら、きっと、約束を守ろうとする子どもの自覚や意欲も高まるのではないか。

2年生が初めて自主学習に取り組むという。教室では、「何を、どのように、どの程度やるのか」担任が子どもたちと丁寧に約束を決めていた。次の学年への準備が始まっている。